

# 社長がつまづくすべての 疑問に答える本 著：田中修治

単行本：496 ページ

出版社：KADOKAWA

価格：2,090 円（税込）

## はじめに

著者は、2008 年に負債 14 億円・債務超過のメガネチェーン OWNDAYS を買収し、翌年に黒字化を達成した経営者です。自伝的小説『破天荒フェニックス』の著者としても知られています。現在は 13 か国 600 店舗超、売上高 500 億円規模のアジア最大級のメガネチェーンへと成長させました。

本書は全 71 問の Q&A 形式で、資金繰り・人材・ブランド・M&A など経営者が必ずぶつかる課題を実体験に基づき解説しています。496 ページの厚さながら、目次から必要な箇所だけ読み進められる構成です。

## 成功はアート、失敗はサイエンス

著者は「成功は再現できないが、失敗は予防できる」と説きます。成功は市場環境やタイミング、人材、運など無数の要因が絡み合った一回性のもの。同じ方法を繰り返しても同じ結果にはなりません。

一方、失敗には業種や規模を問わず共通のパターンがあり、仕組みで防げる。つまりサイエンスだと著者は指摘しています。コントロールできない「成功の再現」ではなく、コントロールできる「失敗の予防」に全力を注ぐ。

うまくいった時ほど「運が良かっただけ」と身を引き締める謙虚さも、著者が大切にしている姿勢です。年 5%の堅実な成長を 10 年積み上げれば大きな差が生まれるという視点も印象的でした。派手な飛躍より、着実に失敗を防ぎながら歩みを重ねる。この発想の転換が本書を貫く哲学です。

## データが見抜く「辞める人」の予兆

人材の定着は多くの経営者にとって切実な課題です。著者は OWNDAYS で過去のすべての採用実績とその後の経過をデータ化しました。採用ルート、年齢、通勤時間、

面接官、配属先、上司など、離職に関係しそうな項目を一覧化し、離職率との因果関係を検証したのです。

すると項目ごとにさまざまな傾向が浮かび上がり、採用戦略を最適化した結果、離職率は大きく改善されました。データの分析だけでなく、入社後のフォロー体制の見直しも欠かせないと著者は強調しています。

勘や経験に頼る採用からデータに基づく採用へ。この転換が組織の安定を支えています。

## 仕組みとマニュアルは何が違うのか

著者は「仕組み」と「マニュアル」を明確に区別しています。仕組みとは「何を優先し、どう判断するか」を揃える全体最適の設計であり、マニュアルは「どうやるか」を揃える部分最適の手順書です。仕組みなきマニュアルの乱立は、部門間で矛盾を生みかねません。

「同じ質問が 3 回以上繰り返されたら、即座に仕組み化せよ」という明快な判断基準も紹介されています。社員教育に時間をかける前に、まずミスが起きない仕組みを整える。この優先順位の考え方は、人手不足に悩む中小企業にとって大きなヒントになるはずです。

## 経営者の孤独に寄り添う「辞書」

本書は通読型ではなく、困ったときに引ける経営の辞書として設計されています。経営者になると相談できる相手が減り、孤独な判断を迫られる場面が増えるものです。

そんなとき、該当する質問を開くだけで頭が整理されるメンター的な存在として活用できます。経営者はもちろん、起業を志す方や組織づくりを担う人事担当者にも、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。